教育目標・評価学会
第36回大会プログラム

2025年12月13日（土）～14日（日）

会場：広島大学東広島キャンパス

第１日目（12月13日）

10:30
理事会
（L102）
12:30

13:00
受付
13:30
講演
学力およびコンピテンシー研究の展開を踏まえて、
あらためて教育目標・評価論の成果と課題を語る
（L205）
15:30

15:45
課題研究
公教育をめぐるポリティクスの運動論的展開
――1960-80年代の民間教育研究運動史に学ぶ
（L205）
17:45

※懇親会：学士会館1階、レストラン
La Bohème（18：00～19：30）

第２日目（12月14日）

9:30
自由研究発表

分科会１（L107）	分科会２（L108）	分科会３（L109）
分科会４（L102）	分科会５（L104）	

12:20

12:40
総会（L205）
13:40

13:00
受付

14:00
公開シンポジウム
なんのために子どもの学習の姿を把握し、評価・評定するのか
（L205）
16:30

※会員控室はL202です。

参加費：正会員・当日臨時会員とも3,000円
（学生会員は2,000円、公開シンポジウムのみ参加の場合は無料）
※現金のみ。お釣りが出ないようにお支払いください。

お問い合わせ先：教育目標・評価学会 第36回大会実行委員会事務局
〒739-8524　広島県東広島市鏡山1-1-1　広島大学教育学部（東広島キャンパス）
木原成一郎研究室気付　　メールアドレス　kiharas@hiropshima-u.ac.jp

後援：広島大学教育学部

参　加　要　項

1．受　付

1日目（12月13日）　13:00～　　東広島キャンパス教育学部玄関にて行います。
2日目（12月14日）　 9:00～　　同上

＊公開シンポジウムのみ参加希望の方については、2日目13:00から受付を行います。

2．懇親会

学士会館1階のレストランLa Bohèmeで開催します（会費5000円）。参加希望の方は申込時に懇親会参加の有無をあわせてご記入ください。当日申し込みはできません。

3．発　表

(1)講演、課題研究および公開シンポジウムの発表資料は、すべてデータファイルにて配付いたします。資料をダウンロード・閲覧するための端末（タブレットやノートPC等）をご持参ください。受付時にQRコードをお配りしますので、各自ダウンロードをお願いいたします。なお、会場ではeduroamをご利用いただけます。（発表者は事前に大会事務局に資料をご提出いただきます。詳細は別途メールにてご案内させていただきます。）

(2) 自由研究発表は、発表時間を25分、個々の発表に対する質疑応答の時間を15分とします。なお当日配布資料を持参される方は、60部印刷してご持参ください。資料が不足しても事務局では増刷りいたしませんのであらかじめご了承ください。

(3) 会場には、プロジェクタとスクリーンを用意しております。パワーポイント等を使用される場合はご自身のパソコンをご用意くださるよう、お願いいたします。

4．総　会

2日目の12:40～13:40に会員総会を開催いたします。会場はL205です。予算や活動方針などを話し合う年一度の機会ですので、多数ご参集ください。

5．その他

○ 駐車場は使用できませんので、公共交通機関を利用してお越しください。

○ 昼食は各自ご持参ください。学内の食堂やコンビニエンスストアは、日曜日は閉店しておりますのでご注意ください。

○ 学会事務局・大会事務局ともに、宿泊先の紹介・斡旋は行いませんので、あらかじめご了承ください。

○ 大会期間中に、会員の皆様の執筆された論文を交換していただくコーナーを会員控室L202に設けます。ご自身の論文の配布を希望される方は、大会会場にお持ちいただき、各自で同コーナーにお置きください。また、論文を入手されたい方は、ぜひお立ち寄りください。

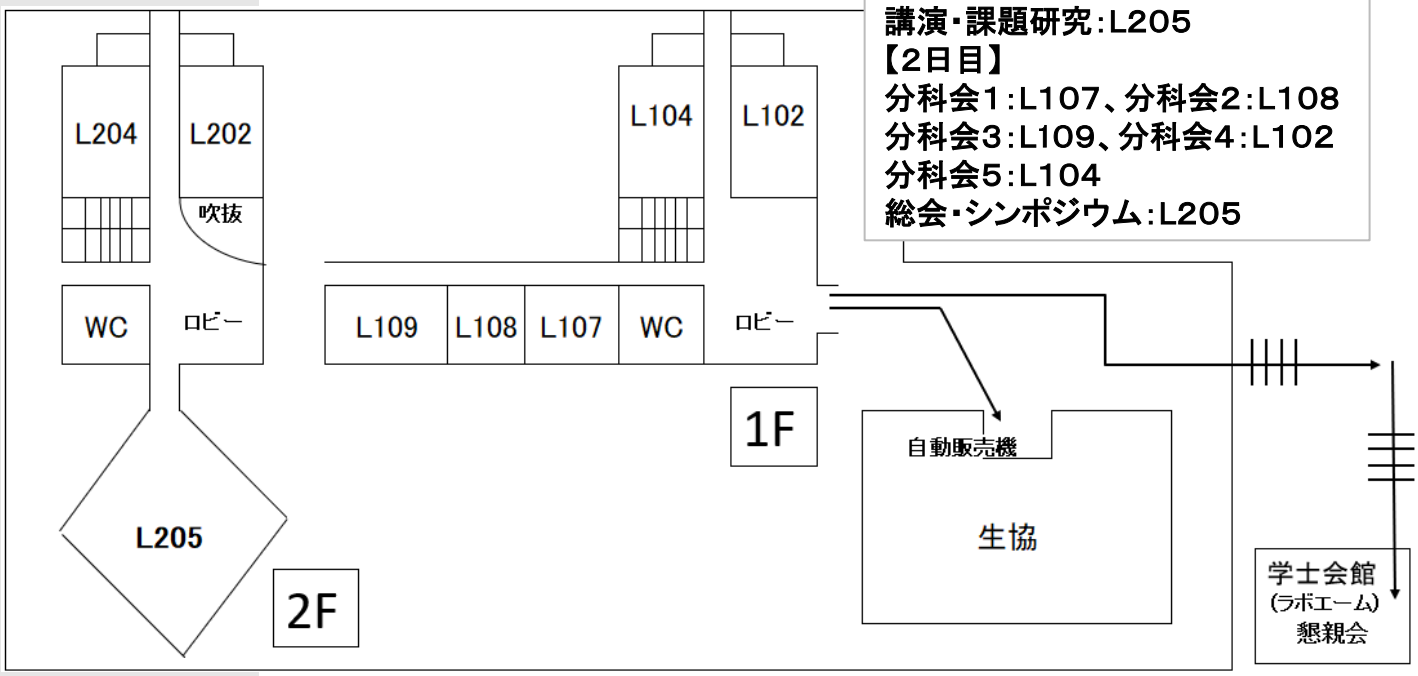
会　場　案　内

会 場：広島大学東広島キャンパス　教育学部L棟
※受付は教育学部玄関です。

キャンパス構図

教育学部Ｌ棟

会員控室：L202
【1日目】
理事会：L102
講演・課題研究：L205
【2日目】
分科会1：L107、分科会2：L108
分科会3：L109、分科会4：L102
分科会5：L104
総会・シンポジウム：L205



12月13日（土）　13:30～15:30　L205

講演

学力およびコンピテンシー研究の展開を踏まえて、あらためて教育目標・評価論の成果と課題を語る

教育目標・評価学会は「学力が子ども・成人の人間的な発達の基礎になるとの立場に立ち、教育目標・評価の研究の促進と交流をはかることを目的」に1990年に創立された。学会の誕生から30年を経て、本学会の創立に尽力された先輩研究者の思いや学会30年の歴史をふりかえり、学会員の中であらためて学会の目的や課題を学会員の中で共有する機会が所望された。そこで、2022年度を初回とし、「教育目標・評価研究の視点から過去を振り返り、未来を見据える」をテーマに、中間研究集会を3回にわたって実施してきた。

第4回となる本年度は、中間研究集会から学会大会へと場を変更した。今回は、現学会理事でもある松下佳代会員に登壇いただき、学力およびコンピテンシー研究の展開を踏まえて新しい教育目標・評価論を構想してこられた立場から、あらためて教育目標・評価論の成果と課題などについて語っていただく。学会30年の歴史および松下会員の研究史をふりかえり、教育目標・評価研究が持つ教育研究の独自性や可能性をあらためて学ぶ機会としたい。

講演に対しては、コメンテーターとして神代健彦会員および本宮裕示郎会員に、それぞれのお立場からコメントしていただく。

講演者　松　下　佳　代（京都大学）

コメンテーター　神　代　健　彦（京都教育大学）
本　宮　裕示郎（滋賀県立大学）

コーディネーター　八　田　幸　恵（大阪教育大学/研究推進委員会委員）

司会　八　田　幸　恵（大阪教育大学/研究推進委員会委員）
二　宮　衆　一（和歌山大学/研究推進委員会委員）

12月13日（土）　15:45～17:45　L205

課題研究

公教育をめぐるポリティクスの運動論的展開
――1960-80年代の民間教育研究運動史に学ぶ

近代学校の教育目標・評価論に対する社会的な合意は、公教育が成立し機能する上で欠くことのできないプロセスである。しかしながら、家族や地域から産業界までを巻き込む公教育のポリティクスは、複雑かつ不透明であり、進行中の論議においてその全体像を見通せないことも多い。ここに歴史的検討が要請される理由がある。

「民間教育研究運動」は、公教育に対して補完・対立・相対化する民間領域の日本に固有の一形態であり、その運動論はポリティクスの具体的過程であると捉えることができる。また、多くの民間研団体が誕生した1950年代に比して、ここで問題とする1960-80年代は、学校化社会がもたらす諸種の問題状況に直面して「何を・なぜ教えるか」という問いを踏まえた各団体の方向転換が求められた時期であったと考えられる。本課題研究では、この時期の民間研運動の多様な文脈の検討を通して、公教育をめぐるポリティクスの歴史的展開について検討する。

報告者

「技術・家庭科」成立後の技術教育運動
――産業教育研究連盟に焦点をあてて

松　田　洋　介（大東文化大学）

「集団づくり」を学ぶ教師たち――岩手県教職員組合運動を中心に

後　藤　　篤（宮城大学）

到達度評価論の構築とその射程
――京都府における教育行政と運動に着目して

菊　地　愛　美（東海大学）

コメンテーター

河　原　尚　武（元鹿児島大学）　永　田　和　寛（東北生活文化大学）

コーディネーター

山　田　哲　也（一橋大学）

司会

前　田　晶　子（東海大学）

12月14日（日）　9:30〜12:20

自由研究発表

09:30-10:10 第１発表者　11:00-11:40 第３発表者
10:10-10:50 第２発表者　11:40-12:20 第４発表者

分科会１　L107

司　会　平　岡　さつき（共愛学園前橋国際大学）
川　地　亜弥子（神戸大学）

今井誉次郎の教育評価論：社会科と生活綴方との異同に着目して
瀬　川　千　裕（大阪樟蔭女子大学）

目標準拠評価における外国語科「習熟」概念の検討
駒　井　健　吾（長野保健医療大学）

沖縄における方言札：インタビュー調査から
仲　嶺　政　光（富山大学）

中内敏夫「下北での経験」の再検討
北　林　雅　洋（花園大学）

分科会２　L108

司　会　藤　岡　秀　樹（京都橘大学）
本　田　伊　克（宮城教育大学）

「学びに向かう姿勢、人間性等」の評価における自己評価の意義
――算数科におけるチェックシート活用の実践的検討を通して
竹　内　宏　和（東京都練馬区立立野小学校）

私立幼稚園のパラダイムシフト
――「子ども主体」を中核としたカリキュラム再編を通して
鹿　嶋　燿　子（学校法人 大原幼稚園）

小学校における宿題の個別最適化をめぐる教員の語り
――教育目標との関連に着目して
細　尾　萌　子（立命館大学）

自己評価による学習者主体の学びに関する研究
――OPPA論を中心として
中　島　雅　子（埼玉大学）

12月14日（日）　9:30〜12:20

自由研究発表

09:30-10:10 第１発表者　11:00-11:40 第３発表者
10:10-10:50 第２発表者　11:40-12:20 第４発表者

分科会３　L109

司　会　岸　本　実（滋賀大学）
徳　永　俊　太（京都教育大学）

生徒の相互評価における傾向の分析
――中学校理科の実践を事例として
直　井　良　太（千代田区立九段中等教育学校）

中学生の社会科観の変容に関する実践的研究
――「参加と責任のシステム」としての評価活動に着目して
岡　本　慎　平（大阪教育大学教職大学院）

高校歴史系科目の学習成果を可視化する学習課題とルーブリックの検討（2）
――評価リテラシーの変容に着目して
中　村　洋　樹（四天王寺大学）

歴史教育目標としての女性、ジェンダー ――その点描
吉　原　大　貴（東京都立高島高等学校）

分科会４　L102

司　会　山　崎　雄　介（群馬大学）
奥　村　好　美（京都大学）

子どもの学習の事実に基づく教育目標と授業づくり
石　垣　雅　也（北海道教育大学釧路校）

研究会参加が歴史教育観の形成と変容に及ぼす影響
――教育実習生と現職教員の比較から
落　水　裕　大（兵庫県立宝塚北高等学校）

非教員養成学部における「教職入門」の取組
――OPPAによる非認知能力の育成に焦点をあてて
石　田　耕　一（浦和大学）

持続可能な教育課程の改善につながる学校評価のあり方
――学校運営協議会と共に歩む実践を通して
岸　田　蘭　子（滋賀大学）

12月14日（日）　9:30～12:20

自由研究発表

09:30-10:10 第１発表者　11:00-11:40 第３発表者
10:10-10:50 第２発表者　11:40-12:20 第４発表者

分科会５　L104

司　会　藤　本　和　久（慶應義塾大学）
山　田　哲　也（一橋大学）

D.リトルによる「学習者オートノミー」の理論と実践

吉　田　真　生（宇治市立木幡小学校/京都大学研究生）

韓国における道徳科記述式評価の現状とAI評価導入の方向性

JUN SUNG EUN　（春川教育大学）

シンガポールの幼児教育における評価実践とその特質
――日本の「社会に開かれた教育課程」への示唆

李　霞（追手門学院大学）

「力満ちる知(powerful knowledge)」を教育実践でどう構成し機能させるのか
――Jim Hordernが提起するあり方を軸に

柳　田　雅　明（青山学院大学）

12月14日（日）　14:00～16:30　L205

公開シンポジウム

なんのために子どもの学習の姿を把握し、評価・評定するのか

21世紀に入り学習評価論は、外部への証明機能のための評定としての「学習の評価」、教師が指導を改善するための「学習のための評価」、学習者が自己の学習を改善する「学習としての評価」と整理された。つまり、「評価される学習者」から「評価に参加する学習者」、さらに「評価を通して自己を語る学習者」という評価主体の転換を促すものであり、学習者のエンパワーメントの契機としての評価論の再定位を提起した。そして、日本語教育を主な対象とした評価論として、社会に学習成果を発信し学習者をエンパワーメントする「ナラティブ評価」が人と社会をつなぐ評価として提案されている。本シンポジウムでは、評価主体の転換という点から「ナラティブ評価」を対象として取り上げてその可能性と今後の課題を議論したい。

広島大学附属小学校では、新しい知識や価値観と出合ったり、自分のこれまでの認識の枠を越える経験をしたりすることを受容でき、自らの認識を新たにしようとする「＜他者＞を楽しみ続ける子ども」の育成を目指した実践研究を行ってきた。そして、「評価を通して自己を語る主体」を育成する評価法として「ナラティブ評価」を取り入れている。

シンポジストとして、広島大学付属小学校の指導助言者であり、研究者の立場から「ナラティブ評価」を提唱する南浦涼介氏に社会に学習成果を発信し学習者をエンパワーメントする「ナラティブ評価」論をご提案いただく。そして、実践研究の立場から「ナラティブ評価」を開発する広島大学付属小学校の研究部として坂田行平氏、丸田健太郎氏、授業研究の発表として赤松雄介氏（理科）にご登壇いただく。また、コメンテーターとして、子どもたちの自己評価力を育むためにポートフォリオ評価法を提案された先駆者の一人であるとともに、子どもたちが直面する「人生の困難」を解決するために必要な知識を学び、友だちと真剣に話し合うことで、安全な価値観をはぐくむことをめざす「『生きる』教育」を推進されている西岡加名恵氏にご登壇いただき、評価主体の転換という点から「ナラティブ評価」についてご批評いただく。

報告者

「〈他者〉を楽しみ続ける子どもの育成」の研究の取り組みについて
坂　田　行　平（広島大学附属小学校）

理科学習における発見シートを活用した子どもの学びの姿を捉えた実践
赤　松　雄　介（福岡県教育センター指導主事）

子どもの学びの姿をどのように把握し、どのように評価するか
坂　田　行　平（広島大学附属小学校）

考え続けることができる、創造力ある子どもを育てる
丸　田　健太郎（広島大学附属小学校）

人と社会をつなぐ評価
――他者とつながり価値をつむぐための教育的応答として
南　浦　涼　介（広島大学）

コメンテーター

西　岡　加名恵（京都大学）

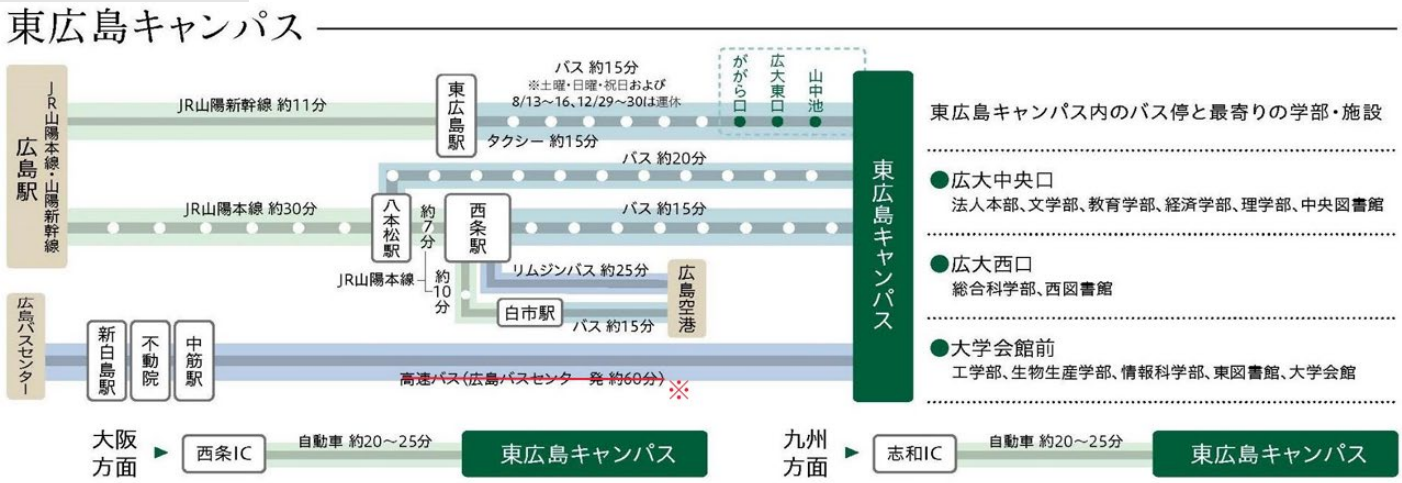
司会・コーディネーター

木　原　成一郎（広島大学名誉教授）
磯　崎　哲　夫（広島大学）

ア　ク　セ　ス

会場：広島大学東広島キャンパス

※2024年3月31日をもって高速バス「グリーンフェニックス」（広島大学行）は廃止されました。



東広島キャンパスまでの交通アクセス

※東広島駅、八本松駅から広島大学行きの土日のバスはありません。タクシーをご利用ください。

バス時刻表

※西条駅から広島大学行きの土日のバスは、本数が少ないです。事前に時刻表をご確認ください。

空港バス時刻表

※広島空港から西条駅行きのバスについては、左記からご確認ください。